



『2003年世界子供白書』が発行されました

「子ども参加」が大切!

でも、「子ども参加」って何だろう?

世界の子どもたちの状況を伝えるために、ユニセフは毎年「世界子供白書」を発行していますが、「2003年世界子供白書」は、少しよすががちがっていました。

テーマは「子ども参加」。全ページにわたって、どんなところでなぜ「子ども参加」が必要か、子どもをとりまく問題を解決するために「子ども参加」がどんなに力になるか、といったことが書かれていたのです。

白書によると、「子ども参加」はさまざまなレベルで必要です。たとえば、家族の中でも、昨年の「国連子ども特別総会」のような場でも、子どもの声が聞かれるようにしなくてはなりません。年齢も関係ありません。生まれたすぐあとから、子どもは自分にできる方法で、自分の思いを伝えようとしています。その声を聞けるようにおとなも努力しなければならないのです。

もちろん、子どもは、おとなのように知識も経験も十分というわけにはいきません

が、子どもならではのアイデアや意見が、おとなにも社会全体にもよい効果をあたえることが多くの場面で証明されています。

それに、子どもが社会で積極的な役割をはたせることは、子どもの成長にもよいことです。みなさんも、自分の意見を聞いてもらえると、何だか自信がつくような気持ちになりますか? それに、社会の問題について知り、それらについて自分の意見を聞いてもらえる場があれば、そのことをよく考えるようになります。そんな経験をたくさんした子どもたちがおとなになれば、もっと民主主義的な社会が生まれ、さまざまな問題も解決されていくだろうとユニセフは考えているのです。

課題は、子どもが参加するかしないか、ではなく、“どのように”子どもが参加するかということに変化しつつあります。何千万人もの子どもたちが栄養不良や病気に苦しみ、搾取などの危険にさらされている今、よりよい子どもの「参加」が問題の解決に役立つことが期待されています。

世界中で「参加」しはじめた子どもたち!

地域の活動で活躍!

ナイジェリアのアビア州にある高校の「子どもの権利クラブ」のメンバーは、赤ちゃんの予防接種キャンペーンに大きな成功をもたらしました。キャンペーン中、メンバーは一軒一軒を訪問して予防接種の大切さを伝え、赤ちゃん一人一人を追跡して、予防接種を受けたかどうか確かめました。活動の結果、それまで予防接種を受ける赤ちゃんは月に8人ほどだったのが、今では月に300人をこえるようになりました。



©UNICEF/HQ01-0249/Justin Leighton

多くの国で子ども議会がひらかれています

タイの若者議会では、76県すべての学校から集まった200人の若者代表(障害のある子どもを含む)が、3日間、7つのテーマについて議論をし、その結果をタイの内閣の会で発表しました。そして、「子ども参加」が政府の政策として採用されました。

アルバニアでは、全土の80%におよぶ地域で、地域ごとの若者議会が開かれています。毎年、すべての地域の若者議会の全体会が首都ティラナで開かれ、そこでは、おとなの議会に対し子どもたちが心配していることが伝えられます。最近では、貴重な自然環境を残す湿地帯での原油調査に反対が唱えられました。



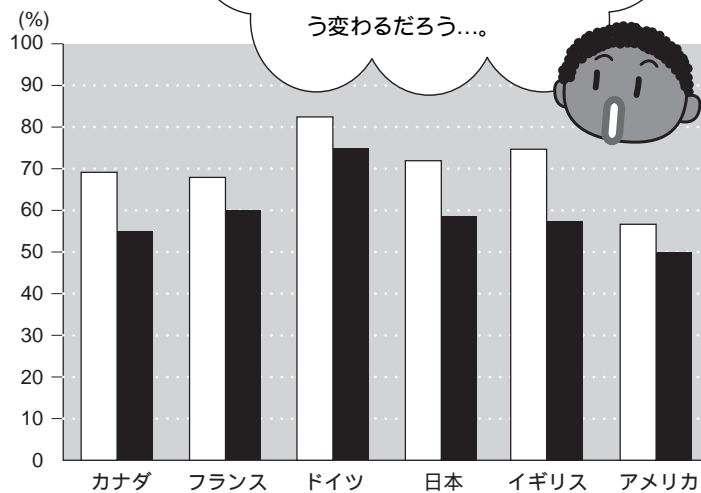
©UNICEF India/DCD-0107

おとなたちも努力しています

子どもにやさしい街づくりをして、子どもが参加しやすい環境をととのえようというとりくみがすすんでいます。インドのカルカッタでは、市の機関全体が協力して、働いている子どもや帰る家のない子どもなど、すべての子どもを調査して、学校に行っていない子どもを特定しました。学校が足りないこともわかり、市は700カ所に子ども教育センターをつくらうとしています。



©UNICEF/HQ01-0251/Justin Leighton



先進工業国での投票率(選挙に参加する人の割合)の変化
1945年~1990年の投票率の平均
もっとも最近の選挙の投票率

先進国では自分たちのことを決める政治に関心のない人がふえているみたい。子どものときから「参加」したり社会のことを考えていたらどう変わるだろう...

ユニセフ子どもネットワーク緊急大調査



伝えましょう! 子どもたちの声

さて、日本の子どもは、「子ども参加」をどう感じているのでしょうか。2月にお願ひした緊急大調査には、びっくりするほどたくさんのお返事があり、どんなにみなさんがいろいろなことを感じているのかがわかりました。中には、クラスメイトにアンケートをとってくれたネットワークもいました。全部を掲載できないのがとても残念ですが、集まった声をできるだけご紹介します。

質問1

「子ども参加」ときいて、 どんなことをイメージしますか？



子どもが意見を伝える場に参加し、おとなと一緒に考えたり、おとなに自分達のことを伝えたり、同じ子どもなのにぜんぜんかんきょうの違う思われていない子どものえんじよに子どもが参加することか。

川崎 真奈 (11歳)

いいと思います。でも何をやるのか何をしたらいいのかわからないです。それに参加してどのようなことを助けられるのかもわかりません。

藤沼 恵 (13歳)

とてもいいイメージがあります。紛争などの話し合いなどにはおとなしか参加してはいないけれど、世界にはおとなだけがいるのではなく、子どももたくさんいるのだから、子ども参加は絶対に必要だと思います。

岩下 哲也 (15歳)

ユニセフ子どもネットをイメージします。子どもネットで活動をしていると、自分も地球の一員だということをごく実感するし、私たち(子ども)が「世界の協力」に参加していかなければいけないと私に教えてくれたからです。

中佐 友衣 (15歳)

以前まで、「子ども参加」と聞いてイメージするものはいろいろな活動に積極的に参加する、体を動かし、何か少しでも社会に貢献することだと思っていました。しかし最近ではそれだけではないと思い始めてきました。私たち子ども一人ひとりが今ある社会問題を理解し、それについて考え、自分の意見を持つこともひとつの「子ども参加」と考えます。

寺田 真里子 (16歳)

はっきり言って、あまりイメージができません。なぜなら、地域の活動から、世界の大きな活動まで、子どもが参加できる場というのが極端に少ないからです。

山神 啓明 (16歳)

現在のイメージとしては、「子ども参加」というスローガンだけで、ただ、子どもも参加しているが、実際はおとなの思うままに動かされているというように思える。

大矢 哲 (17歳)

質問2

自分の意見を聞いてほしいなと感じたり、 子どもに参加させてくれればいいのかと思ったり したことがありますか？ それはどんなことでしたか？

あります。国会に子どもの代表やいろいろな世代の人を入れれば、すぐに今話し合っていることをどう思っているのか、きけるからいいと思います。

本田 瑞貴 (10歳)

選挙。子どもだってその地域にいますからみんなの意見とは言わないけれど、少しは子どもの考える行政？みたいなものもいじりゃないかなあ？

志藤 麗 (11歳)

がっこうあつめたベルマークの使い方。学校でボランティアというわりに、自分の都合でものを買っている。よく考えて使ってほしいと作文に書いた。けれど400人くらいの学校なのに、ボールを90個も買った。神戸の女の子達は、アフガニスタンへボールを送ったのに...悲しかった。

大矢 格 (12歳)

以前、歴史の教科書が問題になって おとな達の間では、毎日議論がなされていたけれど、その時に「子どもの意見も聞けばいいのに」と思った。教科書を使う当事者の子どもが参加していないのは、おかしいと思った。

上野 結 (15歳)

がっこう中を禁煙にしてほしいと思い、先生に頼んだが、断られたこと。がっこうは子どもの生活する場所だから、生徒も集まって会議などをやってほしい。

後藤田 遥 (15歳)

くにどうしの問題で、子どもが出る幕ではないと言われる難しい問題でも、おたがいの国の子どもたちが、どんなことを考えているのか気になる。「おとなが決めることだから子どもたちには関係ない」という考えではなく、ぜひ子どもたちも、その問題が解決できるように手助けしてほしいと思った。たとえば、戦争を始めるかどうかを話し合う会議の傍聴に参加し、子ども達の気持ちも無視せずに物事を決めてもらえるように、同じ地球人として存在をアピールする。

高橋 ありさ (15歳)

ときどき授業の構成がすごく嫌になってしまうことがあります。「こう変えたらもっと楽しい分りやすい授業になるのではないか」、授業以外でも「この制度をこう変えたら生活しやすいのではないか」と考えた時に、それを先生に伝えられるちょうどいい場所がほとんどないことを残念に思います。

藤田 温乃 (15歳)

自分の意見を聞いてほしいと思ったのは、ブッシュ大統領が戦争を強調していた時です。大統領は相手の国のためだという趣旨の発言をしていたようですが、戦争をしたら子どもを含めた多くの市民が傷つくことは、私たち子どもでもわかります。だから、子どもの声も聞いて冷静に判断してほしいと思いました。

宗像 明子 (17歳)

質問3

何かをよくするためのことや、自分の意見を 伝えるようなことに参加したことがあれば、 その時の経験や感じたことを教えてください

がっこうで地球を元気にすることをやっていると、リサイクルのことを発表しました。その時は、おとなもきていて、子どもの意見でも正しいければ、おとなもきちんと聞いてくれるのだな、と思いました。

丸山 綾子 (9歳)

1年生の時に、学校であさがおの種がいっぱい取れたので、どうするかと話し合いになりました。

私は学校の近くにおとしよりの施設があるので、一人暮らしのおとしよりにあけてはどうかと発表しました。いろいろな意見が出た中で、担任の先生が私の意見に賛成してくれて、クラス全員であさがおの種を持っていくことになりました。おとしよりは涙を流して喜んでくれて、よかつたなあと思いました。次の年の1年生から毎年1年生があさがおの種をおとしよりにあげています。私の意見で今も続いていると思うと、とてもうれしく思います。

宇津木 亜衣 (10歳)

インドで地震が起きた時、ユニセフに募金をした。その時、自分のお金が外国のひとの役に立っているのだと思い、世界のつながりを感じた。

今関 美都 (12歳)

市の国際交流センターの「交流祭り」に参加した時、日本ユニセフ協会の宮城県支部の人が励ましてくれて、おとなが自分の考えを理解して協力してくれたことに感激を覚えた。センターの方も(自分を)他のNGOの方と同じに扱ってくれたのでうれしかった。

中村 翔也 (12歳)

区主催の「子どもフォーラム」(区の小学校の代表者が区役所に集まり、これからの区をどうするかについて話し合う)に参加したが、司会がおとなだったのでおとなの思い通りに進められているような気がした。かたたくしく、あまり良い印象をもてなかった。

三木 綾子 (12歳)

「ユニセフ子どもセミナー2002」でみんなの意見や自分の意見を紙に書いた時に、みんながぼくの意見にうなずいてくれてうれしかった。また、みんなの意見を聞いて、みんなも一生懸命だということを感じました。

渡辺 潤 (13歳)

役員会の選挙の時。自分はこんな理由で立候補したいということをみんなに伝えた。選挙が嫌で、立候補するが迷ってたけど、思い切ってやってみた。自分が思っていることを他人に伝えることで、自分の中でも整理ができ、とても充実感を感じた。

E.A. (14歳)

小6の時、子ども国会に参加しました。スケジュールとか発言者とか決められたのは、おとなでした。(発言者はあらかじめ質問を提出しておいて、そこから選びます)自由な意見とか、会議の進行中に考えついたこととか発言できなくて残念でした。

大矢 透 (14歳)

去年の秋、3連休を利用して「ブンとミーチャの物語」原画展をひらきました。子ども買春を来ていただいた方に理解していただくことはとても大変だと気がされました。「これで一体何を伝えたいの」という強気な意見もあり、「こういう現状を知ってもらいたい」と答えるほかにありませんでした。「今はこの活動を進めている」とも言いたかったです。

N. 啓子 (15歳)

年に3回の生徒相談会のようなもので、これからの生徒会活動について意見を述べる場があったのですが、なかなか周りで手を上げる子が少なく、私も手を上げられませんでした。ですから、自分の意見を伝えるようなことに参加したことはない気がします。

山口 梢 (15歳)

中学校では何でも生徒達で提案し、アンケートをとり、決定していた。心の面で成長できたと思し、その難しさも知った。高校に入学して、一方的に校則を押し付けられ、常に教師と生徒間で対立が起きているのを見ると、なんとも言えなくなる。私が個人的に生活指導の先生に意見を出したら「それはこの高校の代々の伝統だからしょうがない」と言われた。(ちなみにその伝統は県民の日11月半ばまで体育は半そで短パンというもの)おとなは楽なほうを考えると、実際身をもって感じている子どもの意見を聞いてほしい。

石川 未季 (17歳)

質問4

みなさんが考える理想的な「子ども参加」とは どんなものが教えてください

「おとなが子どもの意見を聞いてくれて、それによって世界が動く」というのが理想的な「子ども参加」だと思います。未来は私たち子どもが主役だから。

杉浦 綾子 (12歳)

これからの日本は子どもが中心となって動いていくのだから戦争や核兵器の問題などはごく一部の人達が考え、実行するだけではなく、子どもの意見を聞いてくれて、国会などにも子どもを参加させてくれたらいいなあと思います。

鈴木 彩子 (12歳)

子どもにも発言させてほしい。たとえば国会とか市議会とか、県議会とか。まっ、とにかく子どもにも意見をさせて！そして行動させてください！という感じです。おとなも子どもも関係なく意見が言えるようになってくれたらいいなあ(理想的や！)と思います。

澤田 玲奈 (13歳)

発言、行動に制限がなく、自由でのびのびした環境を作り出すことが「子ども参加」の第一歩なのではないでしょうか？伝えたいことがあっても「周りから変に見られるからやだ」などと思って伝えなくて終わってしまうこともあります。それに伝えたとしても、否定されてしまったり、聞き入れてもらえなかったりすると、不安になってしまうこともあるので、あたたかい環境が必要だと思います。

森田 江璃子 (13歳)

子どもには感じていることが本当はたくさんあるけれど、それを言葉にできず、心の中にとまっている思いがたくさんあると思います。たとえば、発言する場を作ったり、その意見について一緒に考えてあげたり...など方法はいろいろあると思います。

崎田 ゆかり (14歳)

幸せに暮らしている子どもこそ、大変な生活を送っている子ども達のために、学校・地域・国から支援していければいいと思います。小さなことでも参加して、世界の状況に目を向けて生きていくことも参加することだと思います。

中澤 真由美 (15歳)

国連子ども特別総会では、本当に困っている国や地域の子ども達が「子ども参加」できたのでしょうか？世界には、学校にいけない子どもが1億人以上います。私たちが知らないだけであつて、世界の国々には自分の意見を言いたくても言えない子ども達が大量にいると思います。将来、過酷な生活の中で、暮らしている子ども達がもっと参加できるように、意見を述べられるようになれたらいいと思います。

木谷 恵子 (16歳)

